

ラオスにおける農村部からビエンチャン都への移住

–ルアンパバン県 H 村を事例として–

Internal migration to Vientiane in Laos:

A case study of H village in Luang Prabang Province

丹羽孝仁* (帝京大学)・西本 太 (長崎大学)

NIWA Takahito (Teikyo Univ.) and NISHIMOTO Futoshi (Nagasaki Univ.)

*niwa@ucre.teikyo-u.ac.jp

1. 研究の目的と方法

本報告は、ルアンパバン県の H 村を事例として、ビエンチャン都への国内移動の特徴を移住者のライフヒストリーを基に明らかにする。H 村の人口構造は次節で述べるとして、本報告の分析対象者は H 村からビエンチャン都への移住者 24 人である。ビエンチャン都においてアンケート票を用いたインタビュー調査を 2019 年 3 月 5～11 日に実施した。

2. H 村の人口構造

H 村には 2018 年 3 月時点で居住人口が 181 人で、これに加えて、村外居住者として一時離村者 27 人、恒久離村者 118 人、計 145 人があげられる。ビエンチャン都は離村者の移住先として最も人数の多い目的地で、離村者のうち 54 人を占める。本報告の対象はかれらの半数近くを捕捉したことになるが、少し注意を要する。ビエンチャン都での調査時には、2018 年時点では H 村に居住していた者や 2018 年 3 月以降に H 村に新たに移住してきた世帯の構成員などが数名含まれるためである。

3. ビエンチャン都への移住の特徴

移住者の属性を簡潔に確認すると、24 人の出生コーホートは、1960・70 年代生まれが 5 人であるのに対し、1980 年以降の生まれは 19 人と年齢層は若者に集中する。また、女性は 9 人で、全員が 1980 年以降の生まれである。ビエンチャン都において女性の製造業での雇用が増加していることが H 村からの移住にも反映している可能性がある。

ビエンチャン都での就労をみると、H 村からの移住者たちは第三次産業、特にサービス業に集中して働いている。かれらのライフヒストリーにおいて、かつて従事していた者も見受けられるが、その多くは転職し、ビエンチャン都で新たな職をサービス業の中に見出している。サービス業で就労する者が多いことは、換言すれば、それだけビエンチャン都の労働市場においてサービス業の雇用力が大きいことを意味する。

ビエンチャン都での生活に対する意見を整理すると、「就労先を簡単に探すことができる」、「生活の質 (QOL) が良い」といった都市生活への満足度を表す意見に加え、「子どもの教育に良い」という意見があげられる。これは、子どもの高学歴化につながり、第二世代を含むビエンチャン都での定住化に寄与していると考えられる。

本研究は JSPS 科研費 (課題番号 17H01633 : 研究代表者・横山智) の助成を得て実施した。